

バイタルリンク運用好事例紹介（その10）

～居宅療養管理指導の情報伝達～

●【事例】 91歳男性、脳出血後遺症の方



歯科医師

件名：歯科訪問

口腔内衛生状態が悪いです。義歯も清掃不良。奥様にも毎回食後に義歯を外して洗浄するようにお願いしているのですが、行われていないようです。歯科月1～2の訪問の為歯肉炎の増悪が心配です。



歯科医師

件名：訪問

口腔内衛生状態相変わらず悪く、可能な限り義歯作成外して清掃をお願いしてあります。

歯科医より口腔内の衛生状態の悪化を心配するメッセージがあり、1ヶ月後に改善はないと再度コメントされている。



医師

件名：Re:訪問

ご本人の認知機能は保たれていて、歯みがきはやっているとおっしゃいますが、障害もありますし、継続遂行能力は不十分と思われます。また、奥様が代理セルフケアを継続して担当することは望めそうにない状況のようです。

一方、デイサービスやショートステイ、訪問看護において、ケアを依頼、確保することは可能だと思います。訪問看護師さんには直接お願いすることができました。これまでは、排泄ケアとリハビリを担当するということで入っているとのことでした。

歯科医師からの2度のコメントを受けて、主治医からは現状を鑑みると本人・家族共に口腔ケアを担うのは難しいと報告、本人に係る各職種による支援の再検討を提案しています。



ケアマネジャー

件名：Re:訪問

各サービス関係者には口腔ケアの強化依頼を行わせて頂きます。ご自宅での口腔ケアに関してですが、奥様の介護力や最近の物忘れの感じからすると期待は難しく金銭面に関しての不安も多くサービスの追加もあまり望まれていません。同居している長男に協力を得られるか確認させて頂きます。又、近日常にスポンジブラシなど口腔ケアのセットを用意してもらうよう依頼しておきます。

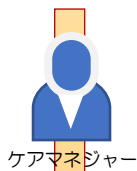


医師

件名：CMさん

デイサービスやショートステイにおいて、おそらく口腔ケア物品の用意などの支援はしてくださっているものと思います。本人も歯みがきは「やっています」とのことでしたが、歯周炎の状態は悪いという状況を有する脳出血後遺症の方です。水ものでむせるとのことであり、誤嚥性肺炎のリスクを有しています。

低頻度の専門的口腔ケア提供だけでリスクをなくすことは困難ですので、セルフケア、(家族による)代理セルフケア、介護によるケア、看護によるケア、そして、専門的口腔ケアを適切にコーディネートして、可能な範囲で誤嚥性肺炎のリスクを低減する必要があると考えます。



件名 : Re: CMさん

ご家族と面談するアポイントをとりましたので現状を直に伝えさせていただきます。その時点でサービス担当者会議の必要性を伝えさせていただきます。

ケアマネジャーは、本人及び家族による金銭負担の不安について触れ、口腔ケア物品の用意や長男の協力の可能性について返信しています。

本事例では、歯みがき行為自体は行っていたけれども、歯周病が改善するレベルでは実施出来ていませんでした。そして現在の口腔内環境では誤嚥性肺炎リスクがあるという課題があります。

バイタルリンク上の歯科医師からの報告を受けて、他の専門職が重要な問題があることを把握しました。解決すべき課題としての認識を共有するために、バイタルリンク上で返信しました。

【ケアマネジメントの層別化】

一般的に、ケアマネジメントは右図のように構成されていると言えます。セルフケア、代理セルフケア（本事例では家族による歯磨き）でどの程度疾病予防（本事例では歯周病進行予防）ができるかを評価した上で、不十分な点を介護職によるケア（身体介護）、看護師によるケア、専門的口腔ケア（本事例では歯科医師あるいは歯科衛生士によるケア）を適切に組み合わせたケア体制を検討する必要があります。

これは、単にサービスの回数や頻度を増やすという意味ではありません。

議論やすりあわせが必要であれば、サービス担当者会議の開催が適切だということになります。

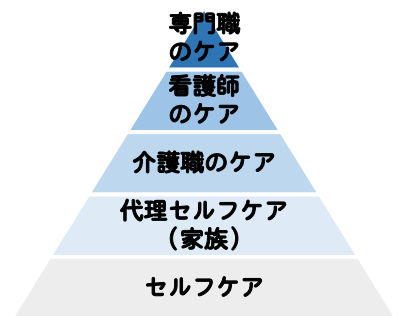
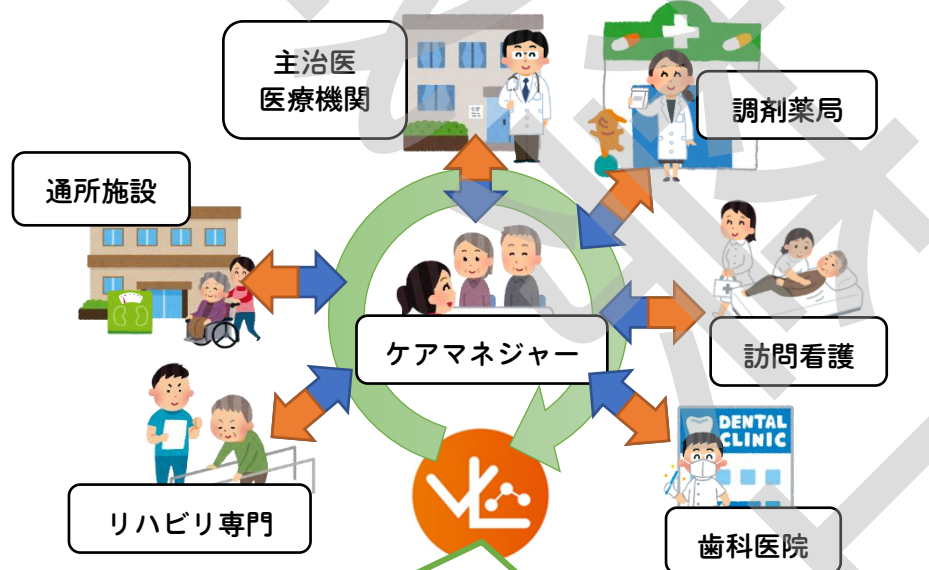


図. ケアの層別化



バイタルリンクを用いることで、参加している各事業所が発信する情報を容易に共有することが出来ます。

ケアマネジャーに報告される居宅療養管理指導の内容は様々であるが、ケアマネジャーはその中から多職種に共有すべき重要な情報を選別し、適切に伝えるべき職種に対して伝達し、ケアに反映させることは難易度の高い作業と言えます。

各職種がそれぞれ作成する報告の内容（の一部）をバイタルリンクへアップすることにより、ケアマネジャーの負担軽減、ケアの質向上や役割分担などの具体的な課題解決につながりやすくなります。